

砂川学習館・地域コミュニティ機能複合施設整備事業の進捗について

令和7年度の供用開始に向けて、砂川学習館・地域コミュニティ機能複合施設の整備を進めておりましたが、本年4月に打設を行った1階床スラブ部分のコンクリートの強度不足が判明したことから、原因究明と対応策を検討するために工事を一時休止しておりました。

その後、受注者による調査の結果と対応の方向性が明らかとなりましたので、工事再開に向けた説明会およびその後の現地見学会を8月に開催し、参加者からのご意見、ご質問を踏まえて慎重な協議を行ってまいりました。

受注者から、工事工程の詳細のほか、技術面や財務面を含めた状況の説明やその裏付けとな



1階床スラブ解体工事の様子

る資料等の提示を受け、工事の完了に向けての確実性を市として認めることができたため、9月17日(火)から工事を再開いたしました。建物工事は令和7年9月末に完了予定です。



完成後のイメージ

詳細、最新の情報はホームページにて更新してまいります。引き続き、安全に配慮し工事を進めてまいりますので、ご協力をお願いします。

☎砂川学習館係 ☎(535)5959

立川市の
歴史と
文化財

55

「普濟寺版」五部大乘経の刊経と伝来



写真1 「普濟寺版」大方等大集経と文書箱

有するなど、市内屈指の名刹として知られています。

普濟寺は中世、多摩地域における学問・信仰の道場として、その中心的な役割を果たしていました。それを示すものに「普濟寺版」の開版と刊経事業が挙げられます(写真1)。普濟寺では、開創して間もない貞治2(1363)年から応永7(1400)年の約40年間、「普濟寺版」五部大乘経の刊経事業を展開していました。五部大乘経とは、大乘の教えを説いた五部の経典の総称のことで、「大方広仏華嚴経」・「大方等大集経」・「魔訶般若波羅蜜經大般若経」・「大般涅槃経」・「妙法蓮華経」の計二〇〇巻で構成されます。「普濟寺版」は、版木を普濟寺に置く旨の刊記が見られる(「大方等大集経」巻第三十)ことからそのように呼ばれましたが、現在、版木自体は失われ、華嚴経・大集経・大般若経の3經典だけが伝わっています。残る涅槃経と蓮華経の2經典が現存しないのは、当初五部大乘経二〇〇巻の刊経を目的として始められたものの、応永7年の大般若経二〇巻をもつて事業そのものが打ち切られたため、この2經典はそもそも開版時点で未刊だったと考えられています。こういった事情がありつつも、普濟寺の刊経事業は武蔵国でも最古とされ、研究史上でも早くから注目を集めてきました。仏典としての書誌学的重要性はさることながら、普濟寺の歴史や文化を示す点において、大変貴重な文化財といえるのです。

また、「普濟寺版」は立川の歴史、ひいては多摩地域の歴史を紐解く上でもきわめて重要な史料とされています。例えば、「普濟寺版」の經典にはほぼ経文の36行ごとに經典名・巻数・帖数のほか、刊経事業を支えた多くの助縁者や寄付者の人々の名前が在所の地名とともに刷り込まれているのですが、その地名は多摩一帯から埼玉県西部に至るまで広く及んでいることがわかります。

ます。さらに、現存する「普濟寺版」の巻頭のほぼすべてに「鶴岡八幡宮寺」の墨印があり(写真2)、巻末奥書には永享5(1433)年3月23日付で「惣奉行」の「前陸奥守憲直」が鶴岡八幡宮に「普濟寺版」を奉納したとする識語(来歴)があることも注目されます(写真3)。奉納者の「前陸奥守憲直」は上杉憲直と呼ばれる人物ですが、彼は関東管領上杉氏の庶流であり、関東における室町幕府の統治機関・鎌倉府で活躍しました。特に鎌倉公方足利持氏の側近として著名で、室町幕府に反抗的であった持氏が関東管領上杉憲実と対立して永享10(1438)年に挙兵すると(永享の乱)、持氏方の大将として室町幕府および上杉憲実の軍勢と戦っています。この永享の乱が勃発するわずか5年前、持氏政権において、鶴岡八幡宮の作事・造営等をつかさどる鶴岡八幡宮惣(総)奉行であった憲直は、何らかの経路で「普濟寺版」を入手し、これを鶴岡八幡宮に奉納したようです。

以来、「普濟寺版」は長く鶴岡八幡宮に伝来してきましたが、慶応4(1868)年に明治新政府が神仏分離令を出したことで廃仏毀釈運動が全国で起き、その結果として、「普濟寺版」は流出しました。一部は蒐集家の蔵書として奇跡的に残り、それらは現在、東洋文庫・大東急記念文庫・京都大学附属図書館等が所蔵しています。また、普濟寺も散逸した「大方等大集経」の一部を回収することができ、こちらは現在、寄託を受けた立川市歴史民俗資料館で保管しています。

この「普濟寺版」の「大方等大集経」を含めた新指定の文化財は12月1日(日)まで、歴史民俗資料館企画展「立川の文化財―新指定された普濟寺の宝物―」において展示公開しています。ぜひ会場までお越しください。

☎歴史民俗資料館(生涯学習推進センター文化財係) ☎(525)0860